

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成30年8月発行 No.53号



カエンボク

国際協力機構（JICA）から研修生を受け入れ

8月2日（木）、3日（金）の2日間、国際協力機構（JICA）による「海洋生物多様性保全及び海洋保護区（MPA）管理コース」の研修生4名（パプアニューギニア）と引率及び通訳2名の6名が、当センターに来所しました。

8月2日の午後から合同庁舎会議室において「沖縄・西表島の森林・林業等」について説明し、質疑を受けました。

8月3日には、石垣島から西表島に渡り、仲間川の遊覧船に乗り、マングローブ林やサキシマスオウノキ（森の巨人たち百選）を視察しました。

その後、大富展望所から日本一雄大な仲間川のマングローブ群落を觀賞し、竹富町交流センターに移動しました。

午後から、当センターで取り組んでいる「海岸林の自然再生の取組」について説明を行い、試験地がある南風見田海岸に移動し、視察しました。

現地では、日射しが強く汗がしたたる中、郷土樹であるフクギ、テリノボクの植栽木による海岸林の自然再生の取組みや外来種であるギンネムの駆除手法について質問がありました。

帰国後、研修生にとって、今回の研修が何らかの形で役立つことを祈念いたします。



説明を求める研修生

石西礁湖自然再生協議会の開催

平成30年7月7日（土）に沖縄県八重山合同庁舎大会議室において「第23回石西礁湖自然再生協議会」が開催されました。



石西礁湖協議会の様子

同協議会は自然再生推進法に基づき、石西礁湖（石西礁湖に影響を及ぼす陸域と海域を含む）の自然再生を推進するため、必要な事項について協議することを目的としています。

今回、新たな協議会の体制として、石西礁湖の取組状況の共有、意見交換の場を定期的に設ける等、部会の設置や協議する事項等が明確にされました。

2007年に策定された短期目標の10年が経過したことから、これまでの取り組みの評価・検証を行い、自然再生全体構想において、向こう5カ年（2019-2023）の行動計画が策定されます。

また、健全なサンゴの生態系を保全するため、サンゴ礁生態系の再生方法や健全な海を取り戻すための対策方法等の骨子案が承認されました。

東海大学 生物学科の学生を受け入れ

西表森林生態系保全センターでは、昨年度に引き続き東海大学生物学科の依頼を受けて、8月22日に学生15名（外引率教授等3名）を対象にレクリエーションの森施設である「亜熱帯樹木展示林」、隣接するマングローブ林内に設置している木道において、西表島の森林及び植生等について説明しました。

例年、「亜熱帯生態系フィールド実習」として北海道キャンパスから来島しており、北海道と西表島の気候差や真夏の暑さに翻弄されながらも展示林や木道周辺のマングローブ林内の亜熱帯に生息・生育する動植物を熱心に観察しながら職員の話に耳を傾けていました。



講義を終えてニコニコ(^_^)



ミナミトビハゼを見て指さす大学生

南風見田海岸 忘勿石ビーチクリーンアップ大作戦

6月16日（土）に西表エコプロジェクト主催の「ビーチクリーンアップ大作戦」が、西表島の南風見田海岸忘勿石で実施されました。当日は、土曜日とあって親子での参加も多く、当センター職員3名を含む55名が参加しました。

台風6号が通過した後で天候等も心配されましたが、太陽が照りつける中、参加者は汗をかきながら漂着ゴミを回収しました。

子供達の調査によると、プラスチック（発砲スチロール、魚網、ロープ、ブイ等）やガラス（瓶、電球等）、金属（飲料缶、スプレー缶、食料缶等）、布製品などがあり、約50.9袋分（45L袋）のゴミを回収しました。

また、ペットボトルについては265本の回収があり、国別の内訳では、中国、日本、マレーシア、ベトナム、タイ、台湾の順に多く漂着していることが報告されました。

このような地元の方々の活動の下、美しい海岸の景観が維持されました。



皆で拾い集めたゴミ



美しくよみがえった海岸

西田川・ヒナイ川の利用状況調査を実施

6月期の西田川利用状況調査を6月7日(木)に実施しました。

当日は、カヌーツアー2組の利用者数は16名(ガイド含む)でした。

晴天で非常に暑かったこともあり、ツアー客は滝に打たれたり、滝壺で泳いだりと涼をとっていました。

滝壺に入った利用者からは「気持ちイイ〜♪ サイコウ〜!」とはしゃぐ声がしていました。

7月期のヒナイ川の利用状況調査を7月19日(木)に実施しました。

当日は、カヌーツアー18組の利用者数は81名(ガイド含む)と平日にもかかわらず利用客が多く、ほとんどが県外や国外からの観光客でした。

晴天で少し風もあったせいか、日頃のむし暑さはあまり感じられず、また、滝壺に落ちる水の量も普段より多かったこともあり、滝壺で泳ぐ利用者が多かったようです。



西田川の利用者



ヒナイ川の利用者

石垣市爬龍船（ハーリー）競争大会に参加



石垣市で海神に安全を祈願する爬龍船（ハーリー）競争大会が6月17日行われました。今年、日曜日の開催となったことから、応募団体が多く抽選が行われ、くじ運の強い環境省の担当が見事参加権を引き当てました。

当センターは、環境省（石垣自然保護官事務所、西表自然保護官事務所）との合同チーム（チーム名：F & R（フォルスター&リジャー））を結成し参加しました。

当日は台風6号の影響で開催が危ぶまれましたが、晴天の中80チームが10組に別れ競争が行われました。当チームは第9組目のスタートとなり、練習不足のため不安もありましたが、これまでで最高位（8チーム中、3位）の成績で競争を終えました。

試合後は、検討を称え反省会を行い、今後の親睦も深まりました。



戦いを終えた勇士たち

西表島の樹木

テイキンザクラ 提琴桜

トウダイグサ科

分 布	西インド諸島原産
葉 の 形	卵形、楕円形
葉 の 縁	全 縁
葉 の 先	鈍 形
葉の付方	互 生
葉の種類	単 葉
花・萼色	赤色、桃色、橙色

樹高は1~3m、枝はやや下垂し、枝先に総状花序（柄のある花が花茎に均等につく）を出し、花の径が2~3cmの5弁花を数輪つけます。

花の色は濃い紅色や桃色、橙色などです。花の後にできる実は蒴果（熟すと下部が裂け、種子が散布される果実）です。

濃い目の赤い花が鮮明であり街路樹や庭木として植えられています。



カエンボク「ノウゼンカズラ科」 *Spathodea campanulata*

花言葉：名誉を表した言葉

橙色の花を枝先に多数咲かせます。花の形は炎が燃えるように見えることから「火炎木」また、花の形がチューリップに似ているので、アフリカンチューリップと呼ばれています。

カエンボクはアフリカ原産で高さが10mくらいになる常緑の高木です。



林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

